

かえり道 さそい道

前住からの法座お誘い状 第3号

※新緑の五月です。さわやかなこの季節を、江戸時代の俳人山口素堂は十七文字に詠みました。

目に青葉 あおは

山ほととぎす

初鰹 はつがつお

※「目に」とありますが、「耳に」「口に」がありません。「目に」と書けば、自然と「耳に」「口に」という言葉が浮かぶだろうとわざと省略しているのだそうです。視覚・聴覚…そして何よりも味覚で季節を切りとったあざやかな俳句です。

●味覚障碍 みかくしょうがい

※味覚といえば、味覚障碍という現代病があります。食物の味がわからなくなる病気です。食物添加物などの摂取による過剰な味覚への刺激が原因といわれます。

※知人がこの病気になりました。(強い薬の副作用からでしたが…)何を食べても味を感じない辛さ、文字通りの味けなさ、豪放磊落であつたこの人から以前の明るいおもかげはすっかり消え失せていました。

●人生の味

※食物にも味があるように、人生にも味があります。食物への味覚障碍は現代病ですが、人生への

味覚障碍は…、人はなかなか気づかない病のようです。

※孔子さまも、あなたは自分の人生を本当に意義深く味わっていますかと問い掛けます。

人 ひと 飲食せざるはなし いんじよく
能く味を知るもの鮮きなり あじ 孔子

(…人と生まれて飲み食いしない者は一人もいない。それが、あまりにも当たり前すぎて、人はその食している物の味をわかうとはしない…)

(…人はみんな生きている。それが、あまりにも当たり前すぎて、人生の本当の味を知らずに終わっていく…)

※生老病死の壁に囲まれたこの人生をどう味わうか…仏法からの問い掛けです。

※人生の味を谷川俊太郎さんは詩で綴ります。

百年前 ぼくはここにいなかった
百年後 ぼくはここにいないだろう
当たり前な所のように
地上はきつと 思いがけない場所なんだ

※こんな詩に出会うと、この世に誕生し今ここに生きている不思議さに驚かされます。

●お味わい

※お聴聞のことを「お味わい」と呼びます。人生の味を深め、味覚の感度を増進します。

※親鸞さまのお誕生を慶ぶ法要です。慶祝とお聴聞にどうぞお参りください。

(平成二十九年 宗祖降誕会法要 前住職)

